

<議員・政党からのメッセージ（議員名、政党代表者名 50音順 敬称略）>

●井上 哲士（日本共産党参議院議員）

地震大国日本に安全な原発などありえません。能登地震でハッキリしました。核廃棄物の処分問題が未解決なのに再稼働や新增設など許すわけにはいきません。原発産業から自民党に10年間で70億円を超える献金が明らかになっています。石破首相は「企業献金で政治がゆがめられた記憶はない」と言いますが、先月18日には「可能な限り原発依存度を低減する」から、原発を「最大限活用」へと方針転換するエネルギー基本計画を決定しました。原発再稼働を許さない市民の運動と世論を広げましょう。7月の参議院選挙では、国民の願いに背を向ける政治を変えて、原発ゼロ、温室効果ガス削減目標を引き上げる政府をつくりましょう。私もその先頭に立って頑張ります。

●倉林 明子（日本共産党参議院議員）

政府はエネルギー基本計画から、これまでの「可能な限り原発依存度を低減する」としてきた文言を削除し、「最大限活用」する原案を示していますがもっての外です。「原発がなければ」と牛舎に書き残し、自死した福島酪農家の絶望を忘れることはできません。ロシアによる原発への攻撃、能登地震、明らかになったのは原発との共存はありえないということです。今こそバイバイ原発の声を京都から一緒にあげましょう。

●駒井 高之（新社会党京都府本部委員長）

日本社会は14年前に過酷な原発事故を経験しました。その教訓を投げ捨てず、省エネと再生可能エネルギーの拡大を進めるべきです。しかし、政府の次期エネルギー基本計画は「原発依存度を可能な限り低減する」としてきた従来方針を削り、「再エネ最優先の原則」もなくそうとしています。このまま決定すれば、将来に禍根を残す内容です。原発は現在科学技術で制御できません。日本と世界の破滅につながる原発を全廃しましょう！

●西郷 みなこ（れいわ新選組 参議院京都府総支部長）

東電福島第一原発の事故が起こったとき、わたしは乳幼児を抱えていて、あらゆるものにおびえていました。食べ物、水道水、空気、そして自分が与える母乳にまで。あんな思いはもうしたくありません。誰にもさせたくありません。いい加減に日本は原発をやめられるということを世界に示したいです。そのためにれいわ新選組も、全力でみなさんと一緒に脱原発に取り組みます！

●中村 在男（社会民主党京都府連合代表）

社会民主党は「脱炭素は脱原発とセット」との考え方のもとに、原発推進による地球温暖化対策を許さず、「2030年に原発ゼロ」を国政選挙の公約として掲げています。日本の原発は、すべて稼働停止、廃炉へのプロセスを進めなければなりません。本日の集会在、脱原発への一歩となることを祈念するとともに、心より連帯し、皆さんとともに戦い抜く決意を表明し、メッセージとします。

●福山 哲郎（立憲民主党参議院議員）

多くの方々のご参集中、「バイバイ原発3・8 きょうと」が開催されますことをお慶び申し上げます。官邸において、東日本大震災・原発事故と向き合った政治家の一人として、一度暴れだしたら、人間の手では如何ともしようがない原発を、これ以上日本で稼働することはやめるべきであると考えています。先日、新たなエネルギー基本計画が閣議決定されましたが、従来の文言にあった「可能な限り原発依存度を低減する」との表現が削除されました。福島第一原発の事故から14年、また原発神話に逆戻りしようというのでしょうか。昨年の能登半島地震をあげるまでもなく、今後も各地で地震が発生するリスクを抱えるわが国において、原子力エネルギーに依存しない社会を一日も早く実現することこそ、現実的な道です。立憲民主党は、震災、原発事故の記憶を胸に刻み、地域ごとの特性を生かした再生可能エネルギーを基本とする分散型エネルギー社会の構築、原発依存ゼロ社会を目指しています。本日の集会在原発のない社会に向けた大きな一歩となりますことを心よりご期待申し上げ、メッセージといたします。 2025年3月8日

●堀川 あきこ（日本共産党衆議院議員）

3.11原発事故から14年、いまだに故郷に帰れない方がいます。能登半島の地震は、原発の存在が地域も命も脅かすことが浮き彫りになりました。原発は未来のエネルギーではありません。しかし、自民党政治は原発依存に再び舵を切りました。いま必要なのは、原発回帰ではなく、省エネと再エネで地域も経済も元気にする政策です。日本共産党は脱原発をめざすすべてのみなさんと連帯し、再生可能エネルギーの抜本的な普及に向けて力を尽くす決意です。

●渡辺 和俊（日本共産党京都府委員会委員長）

原発ゼロめざし、この集会在毎年続けてこられたみなさんに心より敬意を表します。政府は、原発の「最大限活用」と新規建設を推進しようとしています。福島第一原発事故の教訓を投げすてるものであり言語道断です。甚大な放射能汚染を引き起こす原発を、「温暖化対策」を口実に推進することは許されません。日本共産党は、すみやかに原発ゼロをすすめて、再生可能エネルギーへ抜本的に転換はかることをめざし奮闘する決意です。

企業の儲けのために原発を永続化しています。さらに、気候変動危機に対しても、まったく無責任な態度です。

巨大地震が想定されている「南海トラフ」沿いの地域をはじめ、活断層による大きな地震の危険が指摘されています。日本は地震大国で、どこでも大きな地震が起こる可能性があります。この日本で、地震で壊れやすく、冷却を続けなければ暴走する原発が、過酷事故を起こさないと断言できる人はいません。昨年の能登半島地震でも志賀原発において、核燃料の冷却に必要な外部電源の一部が受けられなくなりました。また、深刻な原発事故が起きたとき、避難道路の寸断や家屋の倒壊により、計画通りの避難は困難だったことが明らかになりました。さらに、今年のような大雪では避難が一層困難になります。

老朽原発や使用済み核燃料のリスクを次世代に押しつけることはできません。

福島の事故の教訓を忘れた、新たな安全神話に基づいた原発推進の計画は変えなければなりません。

私たちは、安全で安心して暮らしていくため、原子力に頼ったエネルギー政策を原発ゼロ・再生可能エネルギー中心に転換しようの声を大きく広げていくことを目的に、明日、『原発ゼロ京都北部アクション』を開催します。一緒に原発ゼロをめざしましょう。

2025年3月8日 原発ゼロ京都北部府民集会実行委員会

□■「原発のない社会へ2025びわこ集会」からのメッセージ

「バイバイ原発 3・8 きょうと」にご参加の皆さんへ

琵琶湖を有する滋賀県民は、毎年3月に「原発のない社会へ びわこ集会」を開催してきました。

今年も3月8日に大津市生涯学習センターで「原発のない社会へ 2025びわこ集会」を開催します。

今年、原発を止めた樋口英明元裁判官を講演にお招きし、井戸謙一弁護士の基調報告を紹介するとともに、前米原市長で脱原発をめざす首長会議世話人の平尾道雄さんなども連帯あいさつをされます。

今年のスローガンは、「美浜・高浜の老朽原発は、ただちに廃炉せよ!」、「すべての原発を再稼働するな! 廃炉にせよ!」です。

琵琶湖を飲料水とする京都集会在ご参加のみなさまと連帯して、びわこ集会在集う私たちは、14年前の福島原発事故を忘れることなく、原発のない社会をつくりあげる決意を新たにしております。原発ゼロをめざしてともにがんばりましょう。

2025年3月8日 「原発のない社会へ2025びわこ集会」参加者一同

□■「3・9さよなら原発関西アクション」からのメッセージ

「バイバイ原発 3・8 きょうと集会」に参加された皆さんへ

フクシマ原発事故から14年が経ちました。

自民党政権は、フクシマがなかったかのように原発推進に舵を切りました。

冷却に費やされた汚染水は海へ投棄。

汚染された土、街、自然は放置。原発避難者補償の廃止。

汚染された土を全国にばら撒き、中間貯蔵施設を各地で作る動き、老朽原発を再稼働させ、新設も行おうとしています。

しかし、フクシマは終わってはいません。

1グラムも取り出せないデブリ。名ばかり復興の街。今なお続く核の汚染。

1グラムのデブリも取り出されてはいません。

私たちは、この新たな原発推進に対して、14年前の脱原発の波を今一度思い起こし、若者たちや被爆2世、3世の方たちと繋がることで、脱原発、自然エネルギー100%の日本を目指して立ち上がっていかなくてはならないと思います。

私たち一人ひとりの行動によって、原発ゼロに向けた世論を巻き起こすために、大阪の地から連帯して闘いましょう！

2025年3月8日 3・9さよなら原発関西アクション 実行委員会事務局 山口恒樹

□■「3.8なくせ原発おおさか集会」からのメッセージ

「バイバイ原発きょうと」にご参加の皆さん！皆さんの集会和同じ時間帯、私たちは大阪市内で、「なくせ原発大阪集会」を開催しています。同じ思いを持ち集まっている皆さんに心からの連帯を送ります。

2月18日、日本政府は、第7次エネルギー基本計画を閣議決定しました。

原発について東日本大震災・福島第1原発事故以降、政府自身が掲げてきた「可能な限り原発依存度を低減する」の文言を削り、再生可能エネルギーと合わせ「最大限活用」を打ち出しています。原発事故から14年が経過しますが、福島第一原発の廃炉作業の終わりは見えず、復興も道半ばの状況です。また過酷な災害の多い国土の条件や、未解決の「核のごみ」問題など、原発の抱える根本的な問題は依然として山積しています。福島の教訓を忘れ、子孫に負債とリスクを継承する「計画」だと言わざるを得ません。

さらに「計画」では原発について「優れた安定供給性と技術自給率を有し、他電源とそん色のない